

仁田峠：山頂への玄関口

標高 1,040m の絶景ロケーションにある仁田峠は、半島最高峰群への入り口となっています。山には展望台がいくつかあり、晴天の日には限りなく広がる半島の景色を一望でき、海のはるか向こうには天草諸島や阿蘇山、そして熊本市の景色を望めます。その中でもひととき目を引いているのは、地球上で最も新しい山の一つである、平成新山です。周囲に覆いかぶさるようにそびえ立つ平成新山は標高 1,483m で、1990 年 11 月 17 日から 5 年間続いた普賢岳の噴火によってできた巨大な溶岩ドームです。1991 年 6 月には火山からの火砕流により 43 名の死者を出し、数千人が避難しました。

山頂への道

山登り目的で訪れる方のほとんどが普賢岳を目指しますが、その登山口は仁田峠にあります。駐車場から少し歩くとロープウェイの駅があり、標高 1,333m の妙見岳駅まで、ゴンドラに乗って 3 分もしないうちに着きます。ここから多くの方がハイキングを開始しますが、山登りをしない人も同じくらい楽しめます。半島最高地点の展望台までは階段を登って行けるため、険しい山道を登ることなく、パノラマの景色を楽しむことができます。展望台からは、谷の向こうに岩だらけの普賢岳山頂を登る登山者の姿も見えます。

多様性に富んだ野生生物

5 月の上旬から下旬にかけては、山面のあちこちが色とりどりのツツジに覆い尽くされますが、仁田峠エリアだけでも約 10 万もの群生地があると言われています。また、初夏にはヤマボウシの花が山腹を真っ白に染め上げます。野鳥観察を楽しみたい方には、ロープウェイの山麓側の駅から気軽に歩ける道を 25 分進んだところにあるあざみ谷野鳥観察エリアがお勧めです。ここには、オスの上面の黒色と胸元の鮮やかなオレンジ色の模様が特徴のキビタキや、求愛時の独特な鳴き声からジャパニーズ・ナイチンゲールとも呼ばれていたウグイスを始めとする、地域の在来種や渡り鳥が頻りに訪れます。ロープウェイの山頂側の駅から普賢岳までは往復で 3~4 時間の山登りとなります。